



筑波大学

令和5年度 概要

建学の理念

筑波大学は、基礎および応用諸科学について、国内外の教育・研究機関および社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学であることをその基本的性格とする。そのために本学は、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性とを持った新しい教育・研究の機能および運営の組織を開発する。さらに、これらの諸活動を実施する責任ある管理体制を確立する。

校章



筑波大学の校章「五三の桐葉型」は、1903（明治36）年に改定された東京高等師範学校生徒徽章に始まり、1949（昭和24）年制作の東京教育大学学生バッジにも受け継がれました。1974（昭和49）年本学評議会において「紋章については東京教育大学の伝統を引き継ぎ」桐の葉とすることが了承されました。「五三の桐」と呼ばれる図形には、我が国の伝統的な紋章一般がそうであるように多くのヴァリエーションがありますが、本学の校章は花の部分のみ「蔭」（アウトライン）で表される独特のものです。

ブランドスローガン

欧文

IMAGINE THE FUTURE.

和文

開かれた未来へ。

開学からの理念である開かれた大学として、教育、研究をはじめあらゆる面で想像して未来を開く視点から、筑波らしさをIMAGINE THE FUTURE. と表現しました。





目次

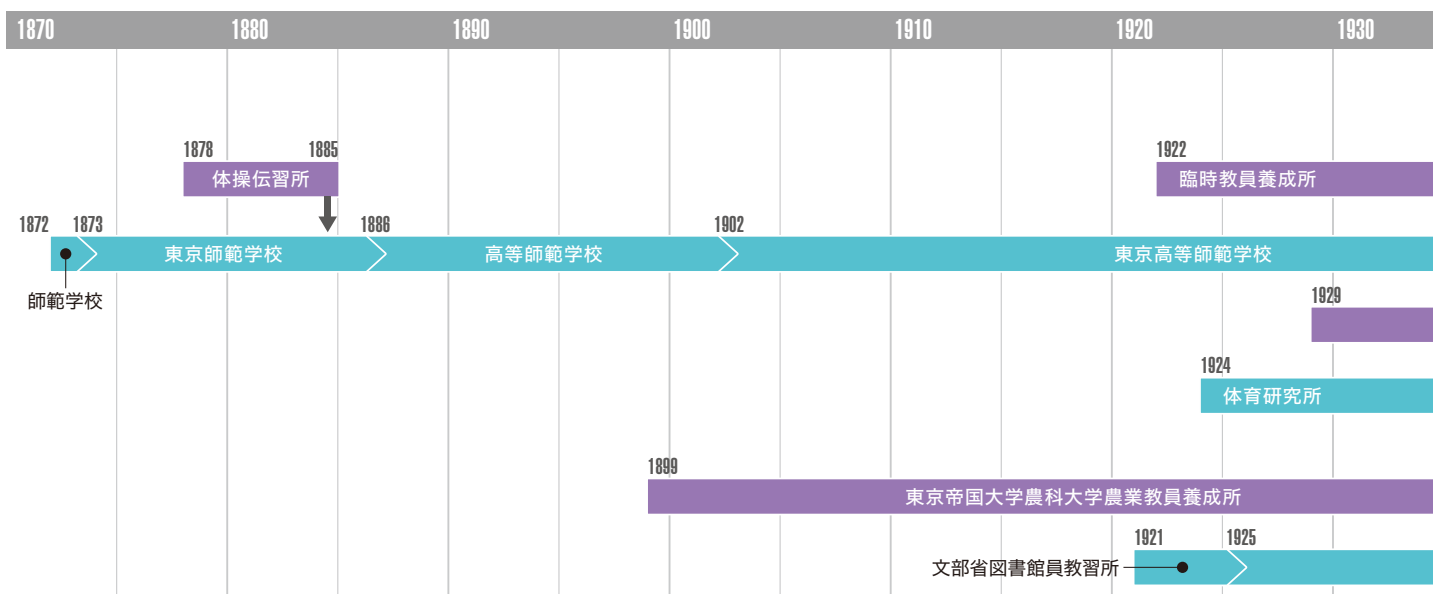
- 4 筑波大学の歴史
- 6 教育
- 10 研究
- 14 産学連携
- 15 社会連携
- 16 国際交流
- 18 研究組織・センター等
- 19 附属図書館・附属病院・
附属学校
- 21 アクセス

筑波大学の歴史



沿革

筑波大学は、東京教育大学の移転を契機に、そのよき伝統と特色を生かしながらも、大学に対する内外からのいろいろな要請にこたえるため、わが国ではじめて抜本的な大学改革を行い、1973年（昭和48年）10月に「開かれた大学」「教育と研究の新しい仕組み」「新しい大学自治」を特色とした総合大学として発足しました。本学は大学改革の先導的役割を果たしつつ、教育研究の高度化、大学の個性化、大学運営の活性化など、活力に富み、国際競争力のある大学づくりを推進しています。



筑波大学は2023年10月に創基151年開学50周年を迎えます



創基151年
筑波大学 50周年記念
50TH ANNIVERSARY OF
UNIVERSITY OF TSUKUBA

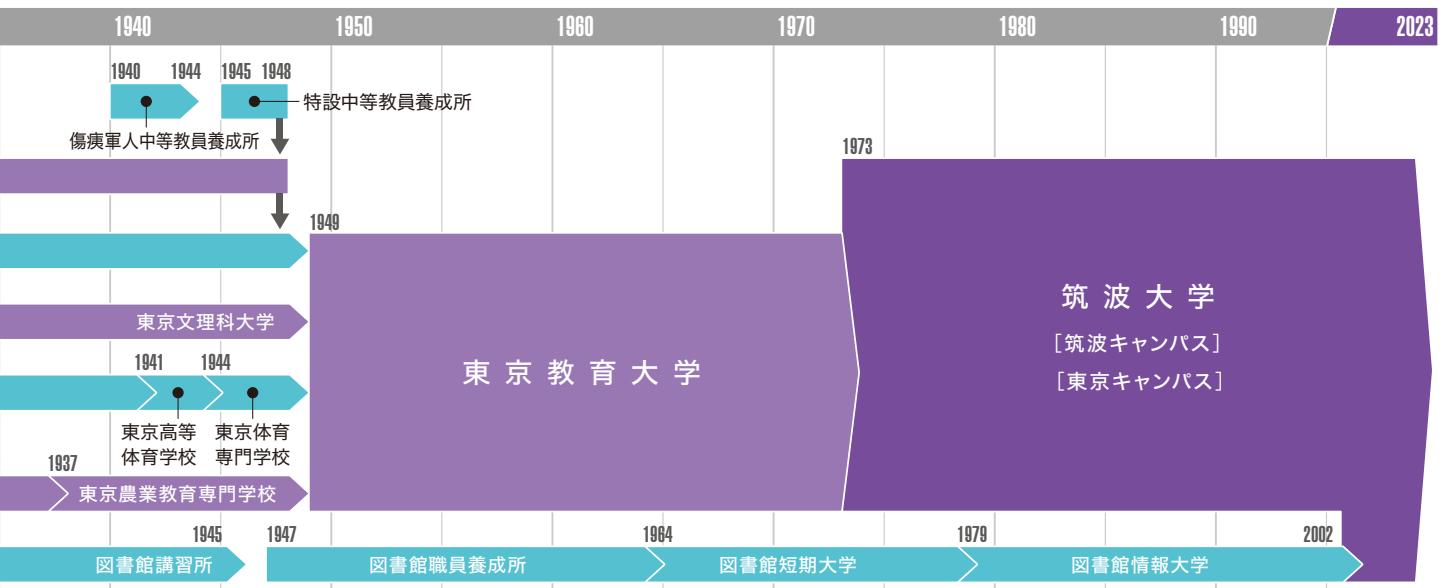
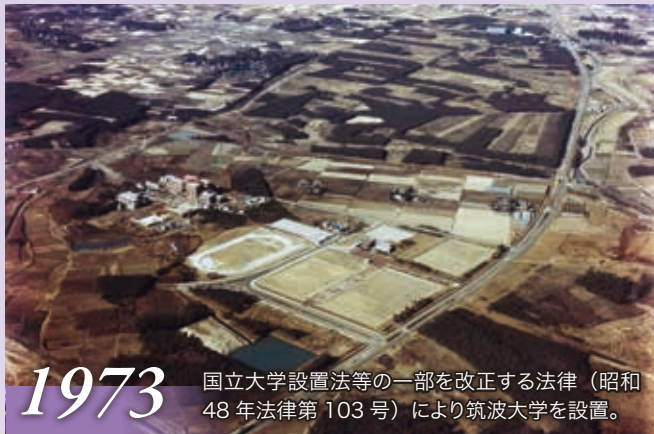
DESIGN THE FUTURE,
TOGETHER.

—ともに拓く未来—



筑波大学と研究学園都市

筑波大学がある筑波研究学園都市は、わが国最大の最先端研究開発拠点です。国立の研究機関の約3割に当たる30以上の研究機関が集積し、約2万人の研究者が研究活動を行っています。筑波大学はその中核的な役割を担っており、イノベーションを生み出す新たな産学官連携拠点の創造を目指しています。



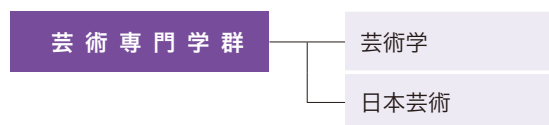
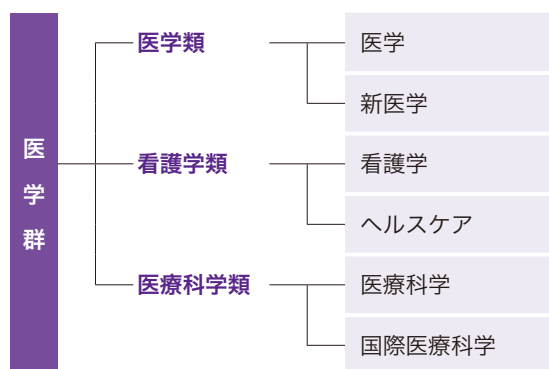
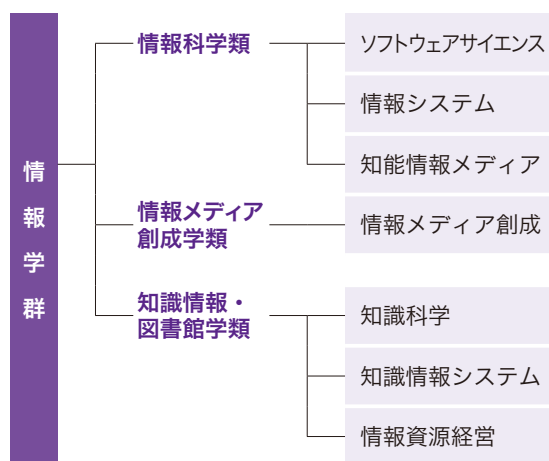
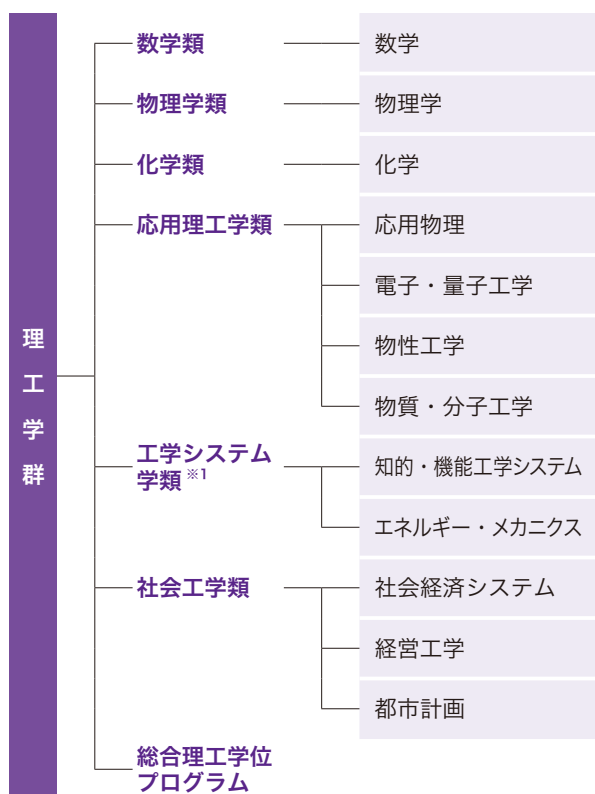


学士課程（学群／学類）

学群とは、学士課程の教育を行う組織です。専門領域を中心としていくつかの学問分野を総合した形で構成されています。また、専門的な一貫教育を行う専門学群が置かれています。

学類とは、学群に置かれ学生の教育に責任を持つ組織です。学群の学生は、学群・学類に所属することになります。





総合学域群^{※2}

※1 令和2年度入学者までは、知的工学システム、機能工学システム、環境開発工学、エネルギー工学の4年専攻体制

※2 入学後1年間の多分野にわたる学びを経て、本人の志望と成績に基づき、2年次より学類・専門学群（体育専門学群を除く）へ移行

大学院課程 (学術院／研究群・専攻／学位プログラム)

学術院・研究群は、大学院の課程の教育を担います。学術院は、学生が高度な専門性と豊かな学識を修得することができるよう、広範な学問分野を包含した編成となっています。研究群には学位プログラムを置き、多様な分野の教員が協働して授業と研究指導を行います。

また、早期修了制度や長期履修制度、社会人のための夜間大学院や昼夜開講制、他の研究機関との連携による連携大学院・協働大学院方式等を積極的に進め、教育内容・方法の高度化・多様化を図っています。

人文社会ビジネス科学学術院

人文社会科学研究群

人文学学位プログラム	M	D
国際公共政策学位プログラム	M	D
国際日本研究学位プログラム	M	D

ビジネス科学研究群

法学学位プログラム	M	D
経営学学位プログラム	M	D

<専門職学位課程>※1

法曹専攻(法科大学院)	P
国際経営プロフェッショナル専攻	P

生命地球科学研究群

生物学学位プログラム	M	D
生物資源科学学位プログラム	M	
農学学位プログラム		D
生命農学学位プログラム		D
生命産業科学学位プログラム		D
地球科学学位プログラム	M	D
環境科学学位プログラム	M	
環境学学位プログラム		D
山岳科学学位プログラム	M	
ライフイノベーション(食料革新)学位プログラム	M	D
ライフイノベーション(環境制御)学位プログラム	M	D
ライフイノベーション(生体分子材料)学位プログラム	M	D

<外国の大学との国際連携教育課程>※1

国際連携持続環境科学専攻	M
--------------	---

理工情報生命学術院

数理物質科学研究群

数学学位プログラム	M	D
物理学学位プログラム	M	D
化学学位プログラム	M	D
応用理工学学位プログラム	M	D
国際マテリアルズイノベーション学位プログラム	M	D

システム情報工学研究群

社会工学学位プログラム	M	D
サービス工学学位プログラム	M	
リスク・レジリエンス工学学位プログラム	M	D
情報理工学位プログラム	M	D
知能機能システム学位プログラム	M	D
構造エネルギー工学学位プログラム	M	D
エンパワーメント情報学プログラム		5D
ライフイノベーション(生物情報)学位プログラム	M	D

人間総合科学学術院

人間総合科学研究群

教育学学位プログラム	M	D
心理学学位プログラム	M	D
障害科学学位プログラム	M	D
カウンセリング学位プログラム	M	
カウンセリング科学学位プログラム		D
リハビリテーション科学学位プログラム	M	D
ニューロサイエンス学位プログラム	M	D
医学学位プログラム		4D
看護科学学位プログラム	M	D
フロンティア医科学学位プログラム	M	
公衆衛生学学位プログラム	M	

ヒューマン・ケア科学学位プログラム	D
パブリックヘルス学位プログラム	D
スポーツ医学学位プログラム	D
体育学学位プログラム	M
スポーツ・オリンピック学学位プログラム	M
体育科学学位プログラム	D
コーチング学学位プログラム	D
スポーツウエルネス学学位プログラム	M D
芸術学学位プログラム	M D
デザイン学学位プログラム	M D
世界遺産学学位プログラム	M D
情報学学位プログラム	M D
ヒューマンバイオロジー学位プログラム	5D
ライフイノベーション(病態機構)学位プログラム	M D
ライフイノベーション(創薬開発)学位プログラム	M D

<他大学との共同教育課程>※1

スポーツ国際開発学共同専攻	M
大学体育スポーツ高度化共同専攻	D

<外国の大学との国際連携教育課程>※1

国際連携食料健康科学専攻	M
--------------	---

グローバル教育院

グローバル教育院は、本学が独自に開設する学術分野横断的な学位プログラムの運営を行います。現在、学士課程と大学院課程に各1プログラムがあります。

地球規模課題学位プログラム	B
ヒューマニクス学位プログラム (卓越大学院プログラム)※2	5D

【凡例】

- B** : 学士課程
- M** : 修士課程または博士前期課程
- D** : 博士後期課程または3年制博士課程
- 5D** : 5年一貫制博士課程
- 4D** : 医学を履修する博士課程(4年制)
- P** : 専門職学位課程

※1 専門職学位課程、外国の大学との国際連携教育課程、他大学との共同教育課程については、専攻として学院の下に設置

※2 大学独自の強みを核に、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程プログラム



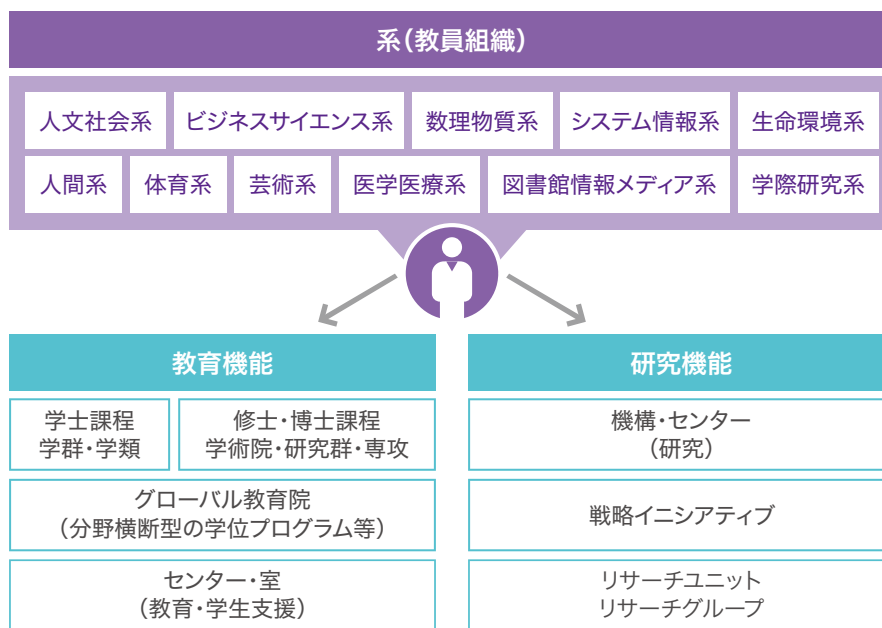


教員組織「系」

多様化・高度化する教育研究のニーズに的確に対応していくため、教員の所属組織と個々の教育研究組織の編成の在り方を区別した新たな教育研究体制として、独自の教員組織「系」を設置しています。

教員は基本的に「系」に所属し、基盤的な研究を行いつつ、学群・学類、学術院・研究群・専攻、センター等、それぞれの教育研究組織の目的に即した教育研究を担います。

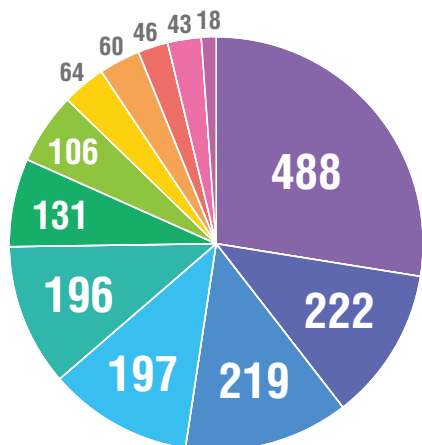
教員の所属組織を個々の教育研究組織から独立させることにより、異なる分野の教員が参画する学際融合・領域横断的な教育研究や、新たな教育研究プログラムの創出を柔軟に行っています。



計算科学研究センターおよび生存ダイナミクス研究センターに所属する大学教員を中心に構成され、従来の学問分野の枠を超えた学際研究を推進する教員組織です。

活動の実績 (令和3年度)

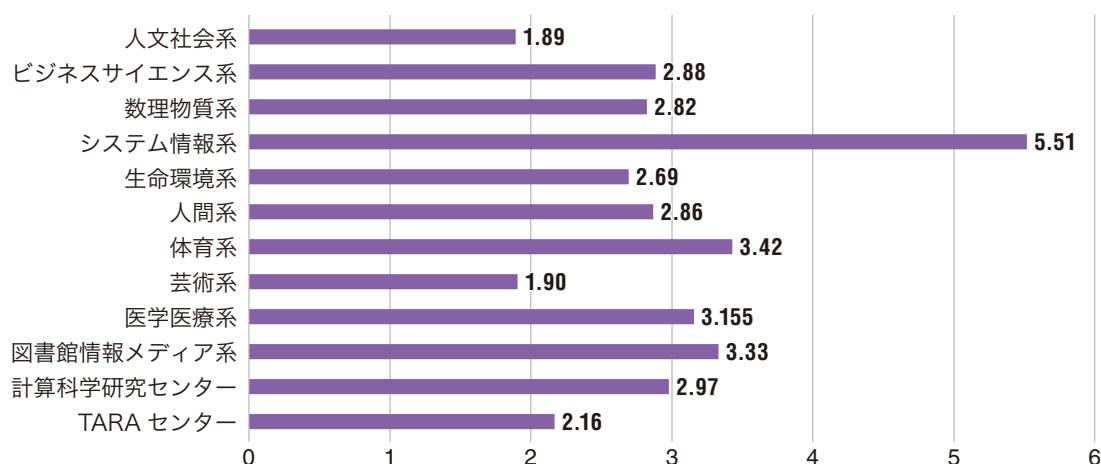
教員数



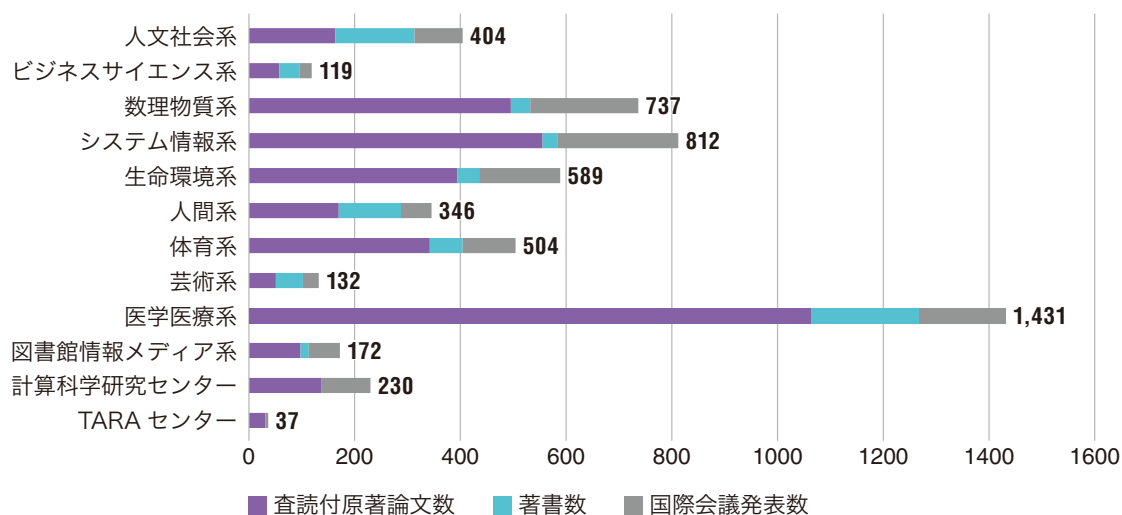
教員総数 **1,790**名

- 医学医療系
- 数理物質系
- 生命環境系
- システム情報系
- 人文社会系
- 体育系
- 人間系
- 芸術系
- 図書館情報メディア系
- 計算科学研究センター
- ビジネスサイエンス系
- TARAセンター

■ **教員一人当たり論文数** 系に所属しない教員については、所属する組織ごとに統計を算出しています。



■ **査読付原著論文数、著書数、国際会議発表数**



査読付原著論文総数

3,558

著書総数

745

国際会議発表総数

1,210



ノーベル賞受賞者

物理学賞



所蔵：朝永記念室

1965年

朝永 振一郎

東京教育大学元学長
東京教育大学名誉教授

「量子電気力学、とくに超多時間理論
およびくりこみ理論の展開」

物理学賞



1973年

江崎 玲於奈

本学元学長
本学名誉教授

「半導体内及び超伝導体内における
トンネル現象に関する実験的発見」

化学賞



2000年

白川 英樹

本学名誉教授

「導電性ポリマーの発見と開発」

学術論文の高被引用論文数

大学の研究面の成果や実績を示す指標の一つとして学術論文の被引用数があります。クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社「インパクトの高い論文数分析による日本の研究機関 2023年版」によれば、2012年1月1日～2022年12月31日の11年間の高被引用論文数は、国内11位となっています。

高被引用論文とは、被引用数が世界の上位1%に入る卓越した論文です。

学術論文の
高被引用論文数

320

国内研究機関の総合分野トップ20

順位	機関名	高被引用論文数	割合
1	東京大学	1,662	1.7%
2	京都大学	998	1.4%
3	国立研究開発法人 理化学研究所	702	2.3%
4	大阪大学	562	1.0%
5	東北大学	561	1.1%
6	国立研究開発法人 物質・材料研究機構	536	3.2%
7	名古屋大学	485	1.2%
8	九州大学	436	1.1%
9	北海道大学	374	1.0%
10	国立研究開発法人 国立がん研究センター	348	3.5%
11	筑波大学	320	1.2%
12	東京工業大学	320	1.1%
13	慶應義塾大学	290	1.2%
14	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	284	1.1%
15	広島大学	258	1.1%
16	早稲田大学	234	1.5%
17	神戸大学	227	1.1%
18	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構	222	1.6%
19	岡山大学	201	1.2%
20	近畿大学	169	2.0%

大学別科研費採択件数

順位	機関名	採択件数 (新規+継続)	新規件数
1	東京大学	4,041	1,298
2	京都大学	3,025	990
3	大阪大学	2,592	888
4	東北大学	2,480	794
5	九州大学	2,062	693
6	名古屋大学	1,821	620
7	北海道大学	1,703	550
8	筑波大学	1,379	449
9	広島大学	1,280	409
10	神戸大学	1,148	350

科研費※採択件数
(新規+継続) **1,379** 件

※科研費：科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)

文部科学省「令和4年度科学研究費助成事業の配分について」(令和5年1月)より。
主要種目のみ、研究代表者が所属する研究機関により整理・公表されています。

科研費 主な採択区分

思想、芸術(およびその関連分野；以下同じ)/文学、言語学/地理学、文化人類学、民俗学/社会学/教育学/心理学/代数学、幾何学/素粒子、原子核、宇宙物理学/社会システム工学、安全工学、防災工学/無機・錯体科学、分析化学/生体分子化学/農芸化学/生産環境農学/社会経済農学、農業工学/個体レベルから集団レベルの生物学と人類学/神経科学/ブレインサイエンス/社会医学、看護学/スポーツ科学、体育、健康科学/情報科学、情報工学/人間情報学/応用情報学/環境保全対策

文部科学省「令和4年度科学研究費助成事業の配分について」(令和5年1月)より。本学が「科研費中区分別採択件数」(過去5年間の新規採択の累計数)上位10位以内のものを掲載しています。

外部資金受入実績

外部資金受入実績件数

3,632 件

区分	件数	受入金額
科学研究費助成事業(内定額)(代表のみ)	1,575	4,485,187
受託研究(治験含む)	782	6,029,130
共同研究	649	1,980,833
寄附金(学術研究関係)及び研究助成金	626	1,777,256

(単位：千円)

代表的な外部資金獲得例

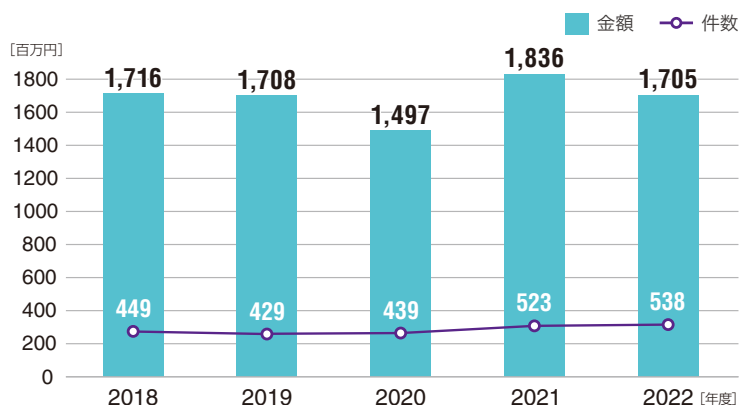
事業名	プロジェクト名	代表研究者
科研費 特別推進研究	分子組織化に立脚した革新的医薬品の分子設計	数理物質系 長崎 幸夫(教授)
科研費 国際共同研究加速基金(国際先導研究)	睡眠の謎に挑む：睡眠神経科学者のグローバルネットワーク構築	国際統合睡眠医科学研究機構 柳沢 正史(機構長/教授)
AMED ^{※1} 再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業(再生医療技術に応用した高度な創薬支援ツール技術開発)	製品化戦略に基づいた、国産MPSによる創薬プラットフォームの実証研究	生命環境系 伊藤 弓弦(教授)
JST ^{※2} 戦略的創造研究推進事業 CREST	計算光学顕微鏡による生きた組織の機能イメージング	医学医療系 安野 嘉晃(教授)
内閣府 先端的サービスの開発・構築等に関する調査事業	インクルーシブ・シティ実現のための実証調査	システム情報系 鈴木 健嗣(教授)

※1 AMED：国立研究開発法人日本医療研究開発機構

※2 JST：国立研究開発法人科学技術振興機構



国内民間共同研究受入額



国内民間共同研究受入額

1,705 百万円

開発研究センター

社会還元型の研究を推進し、イノベーション創出を促進するために、外部資金等を事業運営費として、社会的要請の高い学問分野での共同研究開発を積極的に推進し、産学官の共同研究体制を構築する組織として、国際産学連携本部の下に開設されています。令和5年4月1日現在13の開発研究センターがあります。

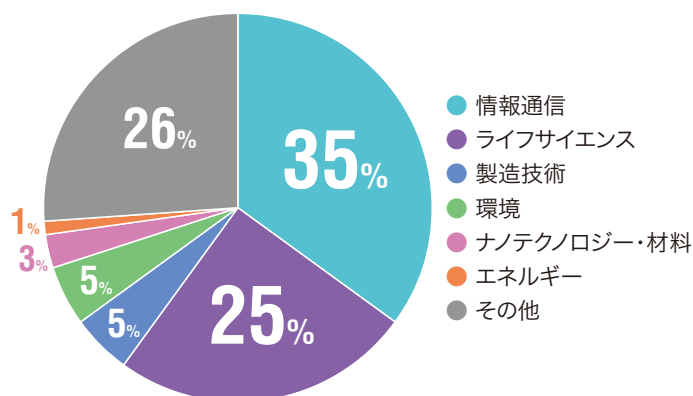
開発研究センター数 **13**

筑波大学発のベンチャー企業

ベンチャー設立累計
(令和5年5月1日)

214 社

主な業務分野



筑波大学発ベンチャーの資金調達

各ベンチャー企業の活躍により、資金調達額は急速に拡大し、2018年度以降で360億円を超える規模になっています。



つくば国際戦略総合特区

2011年、つくば市は国際戦略総合特区に指定されました。

つくば地域の大学・研究機関の集積を生かし、生活や環境の分野でイノベーションを進め短期間で新産業につなげる計画です。国際戦略総合特区に指定された地域では、国や地方自治体から規制の緩和や、財政、税制の支援を受けながら産業の振興を目指します。

本学は、進行中の9つのプロジェクトのうち8つに参画しています。

- 次世代がん治療（BNCT）の開発実用化
- 生活支援ロボットの実用化
- 藻類バイオマスエネルギーの実用化
- TIA 世界的イノベーションプラットフォームの形成
- つくば生物学資源を基盤とする革新的医薬品・医療技術の開発
- 核医学検査薬（テクネチウム製剤）の国際化
- 革新的ロボット医療機器・医療技術の実用化と世界的拠点形成
- 戦略的都市鉱山リサイクルシステムの開発実用化
- 植物機能を活用したヒトの健康増進に資する有用物質生産システムの開発事業化

参画している
プロジェクト 8

高大連携

筑波研究学園都市という立地や総合大学という特性を生かし、高大連携活動を支援しています。高校生の人材育成に貢献するために、最前線で活躍する本学教員を派遣する出前授業や大学の授業が体験できる模擬授業等があります。

社会貢献プロジェクト

教職員や学生からの公募により実施される社会貢献活動です。「科学振興（2件）」「国際（2件）」「文化・地域活性化（9件）」「環境（1件）」「健康・医療・福祉（7件）」「防災・震災復興（2件）」等、幅広い学問分野を持つ本学ならではの取り組みを展開しています。

令和5年度社会貢献プロジェクト例

分野	プロジェクト名
科学振興	先端研究を生かした地域社会貢献型理科教育啓発活動
国際	筑波大学発 SDGs 活動発信拠点形成とつくば SDGs パートナーズの育成
文化・地域活性化	つくさか 食農体験活動支援プロジェクト
環境	「いもりの里」をモデル拠点とした谷津田・里山の復元・維持管理ネットワークの継続的発展 2023
健康・医療・福祉	『難病とたたかう子どもたちに自然体験を！2023』～新感覚のオンライン院内学級の導入～
防災・震災復興	Tsukuba for 3.11

進行中の
主なプロジェクト

23

国際交流



国際展開全般



海外パートナー大学との連携等

海外拠点

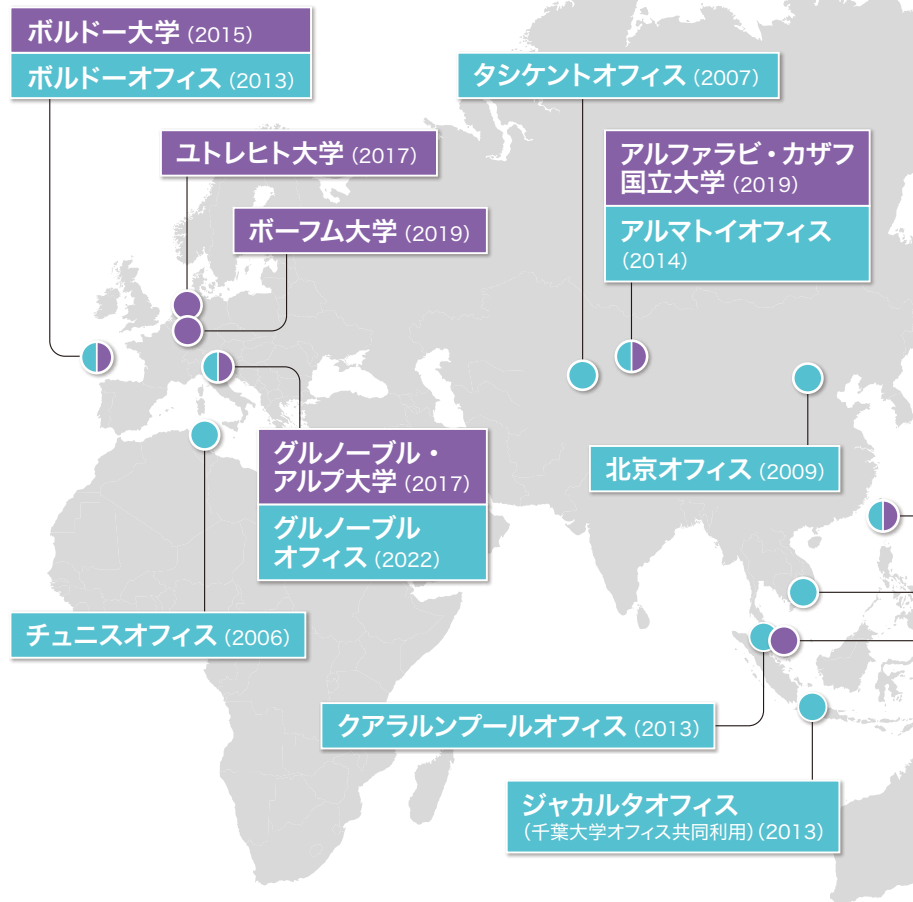
12オフィス(11か国・地域に設置※)
※一部 CiC パートナー校内

国際交流事業の一環として、教育研究活動の国際連携を推進するために、海外オフィスを設置しています。現在、11の国・地域にオフィスがあり、それぞれのミッションに基づいて、留学生の確保、派遣学生の支援、関係大学・機関等との学術交流活動の促進・支援、同窓会ネットワークの構築等、さまざまな活動を実施しています。

Campus-in-Campus^{*}

8か国・地域 10大学

Campus-in-Campus (CiC) 構想とは、本学と世界中のパートナー大学とでキャンパス機能を相互に共有し、学生や教職員が自由に教育研究交流できる環境を実現することを指すものです。



※()は海外拠点設置年または Campus-in-Campus 協定締結年

留学生の受入・派遣

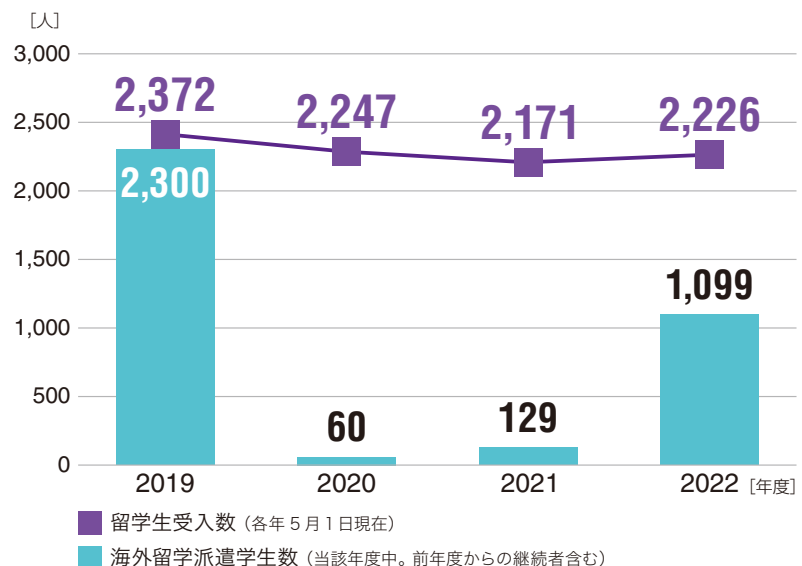
本学は、100を超える国・地域から留学生を受け入れています。英語のみで学位が取得できる多くのプログラムを提供する一方、レベルに合わせたきめ細やかな日本語教育が受けられることも特徴です。

留学生受入

2,226人

留学生派遣

1,099人



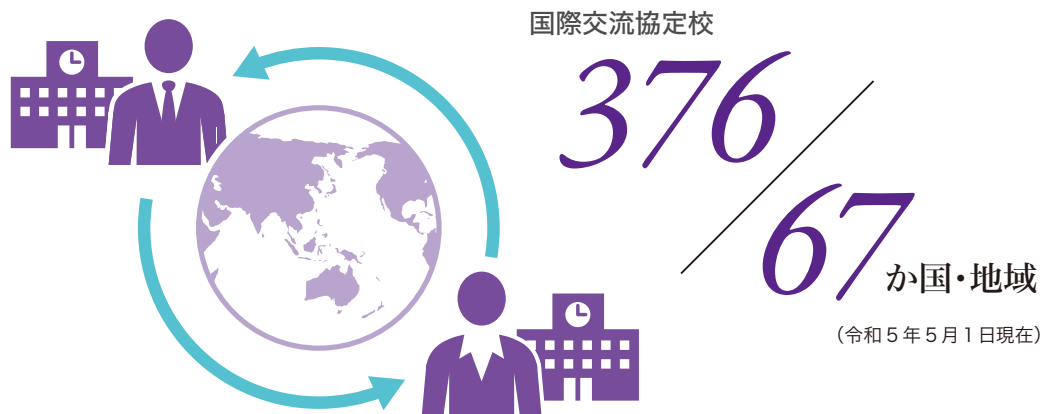


海外拠点 **12** オフィス

Campus-in-Campus
協定機関 **10** 校

国際交流協定

交流協定校は、Campus-in-Campus 10 校、大学間交流 172 校、部局間交流 194 校の計 376 校です。国別では中国が最も多く、米国、ドイツの順となっています。



研究組織・センター等



先端研究センター群^{※1}

- ・ 計算科学研究センター
- ・ 生存ダイナミクス研究センター
- ・ 国際統合睡眠医科学研究機構
- ・ つくば機能植物イノベーション研究センター
- ・ 下田臨海実験センター
- ・ プラズマ研究センター
- ・ 地中海・北アフリカ研究センター
- ・ サイバニクス研究センター
- ・ 放射線・アイソトープ地球システム研究センター
- ・ 人工知能科学センター
- ・ 陽子線医学利用研究センター
- ・ 山岳科学センター
- ・ 微生物サステナビリティ研究センター
- ・ ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター
- ・ トランスポーター医学研究センター
- ・ 宇宙史研究センター
- ・ エネルギー物質科学研究センター
- ・ 西アジア文明研究センター

研究支援センター群^{※2}

- ・ 研究基盤総合センター
- ・ 学術情報メディアセンター

教育等センター群^{※3}

- ・ グローバルコミュニケーション教育センター
- ・ 体育センター
- ・ アドミッションセンター
- ・ 保健管理センター

学術センター

- ・ 人文社会国際比較研究機構

国際科学イノベーション研究組織

- ・ 高細精医療イノベーション研究コア

共同利用・共同研究組織

- ・ つくば臨床医学研究開発機構

開発研究センター

- ・ プレシジョン・メディスン開発研究センター
- ・ 未来社会工学開発研究センター
- ・ スポーツイノベーション開発研究センター
- ・ ヘルスサービス開発研究センター
- ・ テーラーメイドQOLプログラム開発研究センター
- ・ 働く人への心理支援開発研究センター
- ・ イノベティブ計測技術開発研究センター
- ・ 革新的創薬開発研究センター
- ・ デジタルネイチャー開発研究センター
- ・ 健幸イノベーション開発研究センター
- ・ スマートウェルネスシティ政策開発研究センター
- ・ 健幸ライフスタイル開発研究センター
- ・ ゼロCO₂エミッション機能性材料開発研究センター

大学の競技スポーツを統括する組織

- ・ 体育スポーツ局

医療科教員養成施設

※1 先端研究センター群

世界から優秀な人材を引き付ける国際的な研究拠点となることを目標に、当該研究分野における研究を遂行します。また、全国共同研究施設は、大学の枠を超えて全国規模で人的交流、情報交換及び共同研究を行い、関係分野における全国の研究者等に研究拠点機能を提供します。

※2 研究支援センター群

研究の基盤整備を行い、日々の研究が遅滞なく十分に行われるよう研究支援を行います。

※3 教育等センター群

主に学生、職員に対する教育等及び特定の業務を行います。

附属図書館・附属病院・附属学校

附属図書館

附属図書館は、中央図書館と4つの専門図書館（体育・芸術図書館、医学図書館、図書館情報学図書館、大塚図書館）で構成され、本学の学術情報基盤を支えており、学内外から年間100万人近くが活用しています。図書・雑誌に加え、電子ジャーナル・ブック、データベースを計画的に整備し、膨大な資料群と最新学術情報へのアクセスを可能にしています。こうした館内資料を利用した授業やグループ学習、芸術作品や研究成果の発表に活用できる空間も用意されています。また、所蔵する貴重資料の特別展・企画展を開催しています。レファレンスサービスや講習会に加え、中央図書館ではラーニング・アドバイザー（大学院生）による学習サポートやセミナー、ボランティアによる案内も提供しています。



附属病院

附属病院は、大学病院に課せられた「診療・教育・研究」の3つの役割を果たすべく、高度医療の提供、優れた医療人の育成と、次世代医療の開発に取り組んでいます。

茨城県内唯一の特定機能病院として、県全域から高度医療を必要とする患者の受入れを行っており、2019年度からは高度救命救急センターとして、24時間体制で重症患者に対応しています。

また、県内のすべての医療圏に地域医療教育センター・ステーションを設置し、地域医療の現場と連携しながら、高い専門性とホスピタリティマインドを有した人材の育成にも注力しています。

さらに、「つくば臨床医学研究開発機構（T-CReDO）」では、筑波研究学園都市を中心とする産官学の研究機関にあるさまざまな医療関係シーズを革新的医薬品・医療機器・再生医療等製品の創出につなげるため、治験や臨床研究の実施の場を提供し、国際的な臨床開発拠点としての発展を目指しています。



附属学校

先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点という3つの拠点構想を掲げ、大学と連携して日本のみならず世界の初等中等教育および特別支援教育をリードしています。



学校名	特色
附属小学校 (東京都文京区)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制(32人クラス編成)の導入 ・学習公開・研究発表会での研究成果の発信
附属中学校 (東京都文京区)	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動」「体験学習」を重視した教科指導 ・生徒が一から作り上げる学校行事
附属高等学校 (東京都文京区)	<ul style="list-style-type: none"> ・レベルの高い教科教育、バランスのとれた教育課程 ・生徒中心の学校行事・学年行事
附属駒場中・高等学校 (東京都世田谷区)	<ul style="list-style-type: none"> ・唯一の国立の中高一貫男子校、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)校 ・学校行事で創造性とリーダーシップの育成
附属坂戸高等学校 (埼玉県坂戸市)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科高校のパイオニア、ユネスコスクール加盟、国際バカロレア認定校 ・生徒自らが科目を選択するオリジナル時間割
附属視覚特別支援学校 (東京都文京区)	<ul style="list-style-type: none"> ・唯一の国立大学附属の視覚特別支援学校 ・触察による学び、児童生徒が作り上げる学校行事
附属聴覚特別支援学校 (千葉県市川市)	<ul style="list-style-type: none"> ・唯一の国立大学附属の聴覚特別支援学校 ・確かな日本語の獲得、教科学習および生涯教育に関わる実践と研究
附属大塚特別支援学校 (東京都文京区)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等と連携した知的障害教育における先導的教育研究の実践 ・文部科学省の研究開発学校指定を受けた知的障害教育の教育課程等に関する研究開発の実践
附属桐が丘特別支援学校 (東京都板橋区)	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由特別支援学校の教育ネットワーク拠点として遠隔合同授業を促進 ・個別の指導計画と自立活動の指導、ICTや自作の教材教具の活用
附属久里浜特別支援学校 (神奈川県横須賀市)	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害を伴う自閉症児に関する先導的教育研究 ・自閉症教育実践研究協議会の開催



国内フィールドワーク研修
(附属坂戸高等学校)

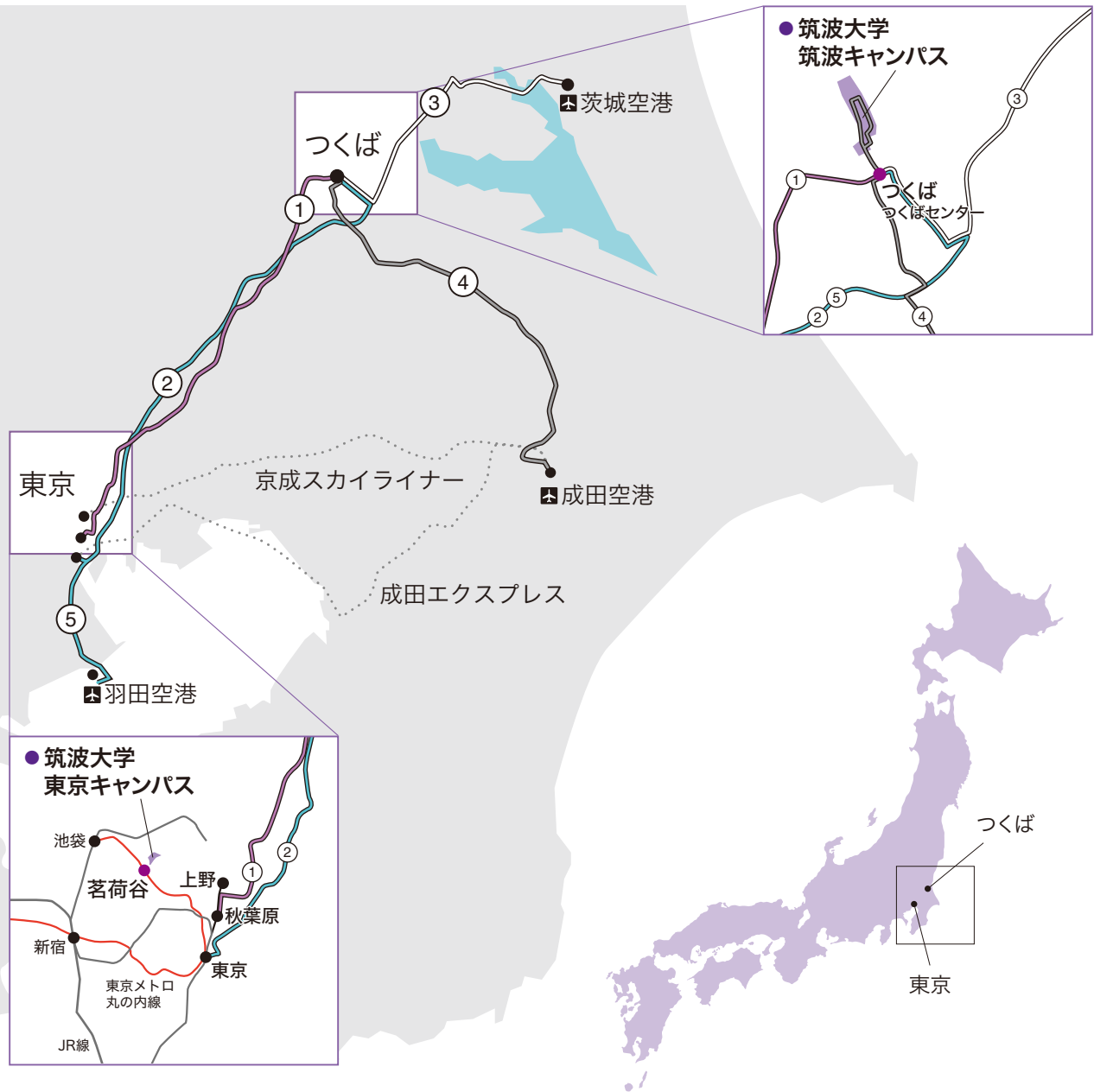


高等部1年秋学校 石畳自然観察
(附属視覚特別支援学校)



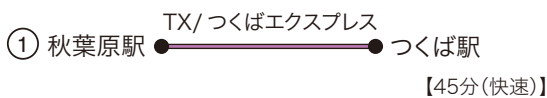
公立特別支援学校との遠隔合同授業(小学部)
(附属桐が丘特別支援学校)

アクセス



筑波キャンパスへのアクセス

● 電車



● 高速バス



● 空港バス



※つくば駅・つくばセンターから筑波大学までは、関東鉄道バス 筑波大学循環をご利用ください





IMAGINE THE FUTURE.



令和5年度 概要

筑波大学広報局

〒305-8577

茨城県つくば市天王台 1-1-1

2023年9月発行



www.tsukuba.ac.jp